

## 講演要旨\*

### 長崎県北松浦玄武岩類について

倉 沢 一

北松浦玄武岩類は、佐賀県伊万里市・長崎県佐世保市および平戸市を結ぶ三角形の中に分布し、北西九州玄武岩類のなかでも最も大規模に活動して現在の台地を形成している。活動期は、一応鮮新世以後と考えられている。現在までに「伊万里」「平戸」「佐世保(未刷)」図幅などで詳しく報告されているが、これら玄武岩類を、下位から上位まで各地点でサンプリングし、化学分析、検鏡などで吟味したところ次のことがわかった。

1) 熔岩の対比の結果から、諸性質を考察し大きく5グループに分類した。

2) これらのうち、最下位のIのグループならびに最上位のVのグループは量的に少なく、付随的な活動、つまり小規模な活動を示す。

3) Vのグループは混成作用の影響を大きく受けている。

4) Iのグループは最も  $\text{Na}_2\text{O}+\text{K}_2\text{O}$  に乏しい性質をあらわす。

5) このIのグループからIVのグループまでのサイクルにおいて、とくに  $\text{Na}_2\text{O}+\text{K}_2\text{O}$  が増加し、また減少する傾向が認められる。すなわち、IIIのグループが最も  $\text{Na}_2\text{O}+\text{K}_2\text{O}$  に富む。

6) 富田(1935)の環日本海アルカリ岩石区の平均値に類似したものは、このアルカリに富むIIIのグループでこれが最もアルカリ岩系的要素をもっている。

7) 一地域でのこのようなサイクルと、現在までに報告してきた、山陰西部、上五島、五島・福江島、多良岳周辺地域、などと検討してみると、時代的に上記サイクルの一部の要素にあてはめられるようである。

8) こうしたサイクルは、本源マグマの成因に重要な意義をもつものと考えられる。(技術部)

\* 月例研究発表会講演要旨。昭和38年7月本所(川崎市久木)において開催。

### 訂正

第14巻第3号を次のように訂正して下さい。

104-(282)頁右側上から1~2行、3~4行は入れ代っているため 3, 4行を1, 2行へ1, 2行を3, 4行へ訂正、また同頁右下から2行目「上盤例」は「上盤側」に、105-(283)頁右側上11行目「西衝上系」は「両衝上系」に、同14行目「両衝上系の間にも中生界」は、「両衝上系の間にもある。中生界」にそれぞれ訂正致します。